



青き楓

島高だより
平成 22 年 8 月号
(通巻第 53 号)
長崎県立島原高等学校
編集：情報図書部

校長室から

「ドーナツの穴」



校長 辰田幸敏

今はあまり食べないが、中学の頃まではドーナツが大好物の 1 つだった。母親が家で小麦粉を練り、フライパンで揚げてくれた。友だちが遊びに来た時やおやつとしてよく食べていた。

その頃から、「パンと違い、なぜドーナツには真ん中に穴があいているのだろう？」と疑問に思っていたが、最近その理由がわかった。日本パン技術研究所の話が雑誌に載っていた。それによると 2 説あり、1 つ目は「オランダには小麦粉の生地真ん中にクルミを入れた菓子があり、17 世紀にイギリスから新天地アメリカを目指す移民たちが中継地のオランダでこれを知り、アメリカに伝えた。しかし、クルミが入手できなかったため中心に穴をあけた」と言う。

2 つ目は「1847 年の話でアメリカのグレゴリーという名の船乗りの母親が揚げ菓子を作ったが、完全に熱が通らずいつも真ん中が半生の状態だった。そこで彼がその揚げ菓子の真ん中に穴をあけた」とその理由を述べている。

ドーナツの穴はなかなか興味深いものであるが、私は 2 つ目の説が正しいように思う。穴をあけたことで生地への火通りがよくなり、形よく揚げることができるようになったのではないだろうか。



9 月の主な行事予定



1 日 (水) 4 日の代休

2 日 (木) 始業式

3 日 (金) 青楓祭(創立 110 周年記念文化祭)

4 日まで

6 日 (月) 11 日の代休

11 日 (土) 体育祭準備

12 日 (日) 青楓祭(創立 110 周年記念体育祭)

13 日 (月) 12 日の代休

14 日 (火) 進路講演会(2 年) 大掃除

15 日 (水) 2 年理数科研修(県立大)

16 日 (木) 生徒会各種委員会

17 日 (金) 国体壮行会

18 日 (土) 対外マーク模試(3 年) 19 日まで

土曜講座(1, 2 年)

進学ゼミナール

22 日 (水) 1 年理数科地学セミナー

24 日 (金) 3 年学年末考査時間割発表

25 日 (土) 土曜講座(全学年)

27 日 (月) 1, 2 年中間考査時間割発表

部活動休止(～10 月 5 日)

30 日 (木) 後期学級役員任命式



部活動等の実績

全国高等学校総合体育大会

○剣道部

女子団体 第 3 位

優秀選手 松嶋祐希

男子個人 第 3 位 入江洋平



○レスリング部

50kg 級 第 3 位 伊藤 優



○ソフトテニス部男子

団体 1 回戦 三島(静岡)に 1-2 で惜敗

個人 平川 幸田ペア 2 回戦敗退

○陸上部

女子 800M 池田真陽 予選敗退

全国高等学校総合文化祭

○合唱部 ○美術部 出場



その他の大会等

○合唱部

第 65 回九州合唱コンクール
長崎県予選 金賞●第 12 回中国・四国・九州地区
理数科高等学校課題研究発表大会
ポスターセッションの部
校長会賞※岩元一章先生 九州陸上選手権
100M 1 位(3 連覇)
4×100M リレー 1 位(初優勝)

宮崎県口蹄疫感染に係わる見舞金

募金総額 69,860 円

お礼状が届きました!



宮崎県にて開催の全国高校総合文化祭に合唱部・美術部が参加しました。口蹄疫感染で大変な苦労をされている宮崎県民に対し、本校生徒会からの応援の気持ちを込めて見舞金をおくりました。

宮崎県立島原高等学校 へ
ご挨拶、ありがとうございます。
「口蹄疫」は、牛豚羊等が感染するウイルス性の病気です。宮崎県では、口蹄疫の発生が確認され、県民の皆様には大変な苦労をされています。本校生徒会では、宮崎県民の皆様への応援の気持ちを込めて見舞金をお送りいたします。

宮崎県立島原高等学校
生徒会代表
東田 孝夫

3年

雲

仙

学

習

合

宿



【第3学年主任 島田 朋成】

今年で29回目となる雲仙学習合宿を8月17日(火)から24日(火)までの7泊8日で実施した。1日11時間の自学と30分間のListening。朝・昼・夜にはそれぞれ2時間ずつ質問できるコマを設け、学年担当はもちろん、他学年の先生からも協力を得て生徒の質問に答える。雲仙学習合宿の主目的は、「自学自習の態度や習慣を身に付け、集中力・持久力を養うこと」にある。長時間の自学は、日頃疎かになっている課題に直面することで、不足する知識を補い、理解を深め、実践力を向上させる絶好の機会である。今年は95%の生徒が参加し、各々が自分自身と必死に向き合い、自己の能力向上に懸命に取り組んだ。「集中力が高まった」「時間がないことがよく分かった」「普段いかに時間を無駄にしているか分かった」「友達の姿に励まされた」「学校でも質問しようと思った」などの感想が多く、得たものは大変大きかったようである。

さて、今年の雲仙学習合宿も成功であったといえるが、問題はこれからである。合宿という「非日常」から、いろいろな取り組みを並行して行っていく日常生活に戻る。その日常の中でも合宿で学んだ「日々努力を継続し、気力を振り絞り、集団で高めよう」という姿勢を貫いて欲しい。是非とも「春の微笑み」につなげて欲しいと思います。

← 卒業生も応援に来てくれました！



新 A L T の 紹 介

新しくALTとして赴任された Jonathan Bruce McLean(ジョナサン・ブルース・マクリーン)先生です。

Jonathan 先生はカナダの大西洋岸にあるニューブランズウィック州のご出身で、韓国で2年間英語を指導された経験をお持ちです。今回ALTとして日本に滞在する間に、英語を教えながら日本の文化を学びたいとおっしゃっています。

これから1年間、どうぞよろしくお願いいたします。



1年

★ 理数科 研修旅行 ★

【理数科主任 吉永 真二】

理数科1年生は8月2日～3日の2日間、長崎総合科学大学にて研修を行いました。今年度は工学部、情報学部、環境・建築学部の3学部にて6講座の研修と施設見学をさせていただきました。初めて大学での講義や研究の一端を経験でき、生徒にとって興味深い研修ばかりで、熱心に取り組んでいました。臨床工学技士養成コースやバイオマス関係の研修では最先端の研究について学び、長崎から全国へ発信する技術があることもわかりました。生徒は、この研修で理系分野に対する興味関心がさらに高まり、大学や学部学科選択、職業選択を考える上で大いに参考になり有意義な時間を過ごすことができました。



2年



【引率 木原加奈子】

8月23日(月)～25日(水)の3日間、理数科2年生の研修旅行を実施しました。本年度は崇城大学の協力で、工学部・情報学部・生物生命学部・薬学部の4学部で体験講義や実習をしていただきました。

『犯罪捜査に使われるルミノール反応』、『言葉を認識できる機械』、『末病の薬学』、『アロマ石鹸作成』、『プロペラ機のコックピット体験』、『ペーパー竹とんぼを飛ばそう』、『蛍の発光反応』など興味深い講義と実習ばかりで、生徒たちは熱心に取り組んでいました。

この3日間の多くの経験を通して、科学への関心がさらに高まったようです。研修旅行で学んだことや感じたことを、今後の進路選択に生かしてほしいと思います。

中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表大会
ポスターセッションの部 校長会賞

【物理班担当 島田 朋成】

第12回中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表大会が8月10日に香川県高松市で開催されました。本校からは6月の県大会で優秀賞を受賞した「物理班」が長崎県代表として「ガウス加速器の基礎研究」というテーマでポスターセッションの部に出場しました。結果は47の発表中、見事、最優秀賞にあたる「理数科校長会賞」を受賞しました。

